

2025年度第2回明石市文化財保護審議会次第

日時：2026年（令和8年）2月28日（土） 14時00分～15時30分

場所：明石市役所 南会議室棟 103 会議室

1. 開会

2. 議事

（1）市指定文化財の指定について（答申案の検討）

・龍虎図

（2）市文化財指定候補について

・松鶴図

3. 報告

（1）文化財関係補助事業について

（2）2025年度埋蔵文化財発掘調査事業について

（3）新修明石市史の発行について

（4）その他

4. 閉会

(参考)

明文ス第 1218 号

2026年(令和8年)2月13日

明石市文化財保護審議会

会長 奥村 弘 様

明石市長 丸谷 聡子



明石市指定有形文化財への指定について (諮問)

明石市文化財保護条例第 19 条第 1 号の規定により、下記のとおり諮問します。

記

- 1 諮問事項 明石市指定有形文化財への指定について
- 2 対象文化財 龍虎図

名称 ^{りゅうこず} 龍虎図

数量 2点(双幅)

時代 江戸時代

寸法 188 cm×60 cm

評価

この龍虎図は魚住町中尾の瑞雲寺ずいうんじにある。作者の石田幽汀いしだ ゆうてい(1721～1786)は明石郡西岡村むら(現在の明石市魚住町西岡)に生まれた江戸時代中期の絵師である。京都の石田家に養子として迎えられて家督を継ぎ、鶴澤探鯨つるざわたんげいに師事しじして禁裏絵師となった。円山派まるやまの祖、円山応挙おうきよの師としても知られる。

本図は右幅を龍、左幅に虎を見つめ合うように対置している。右幅には「法眼幽汀行年六十一歳画之」、左幅には「法眼幽汀行年六十一歳圖之」と落款らっかんがあり、天明元年(1781)の作とわかる。両図の印章は「守直之印」と読める。宝暦7年(1757)に37歳で「法橋」、安永6年(1777)に57歳で「法眼」に叙せられた幽汀の経歴とも符合する。龍図には吹き墨の技法がみられる。

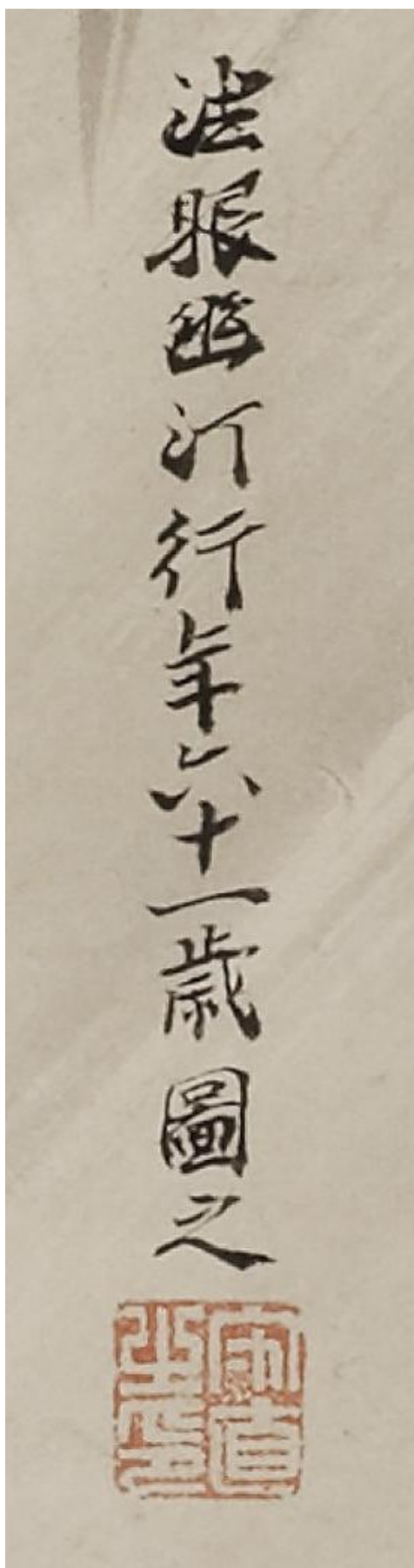
幽汀は郷里の明石で没したとされる。生家たちばなの橘たちばな氏の菩提寺は真言宗薬師院やくしんであり、瑞雲寺とも近い位置にある。この龍虎図は制作年代を特定できる幽汀晩年の貴重な作品と評価できる。



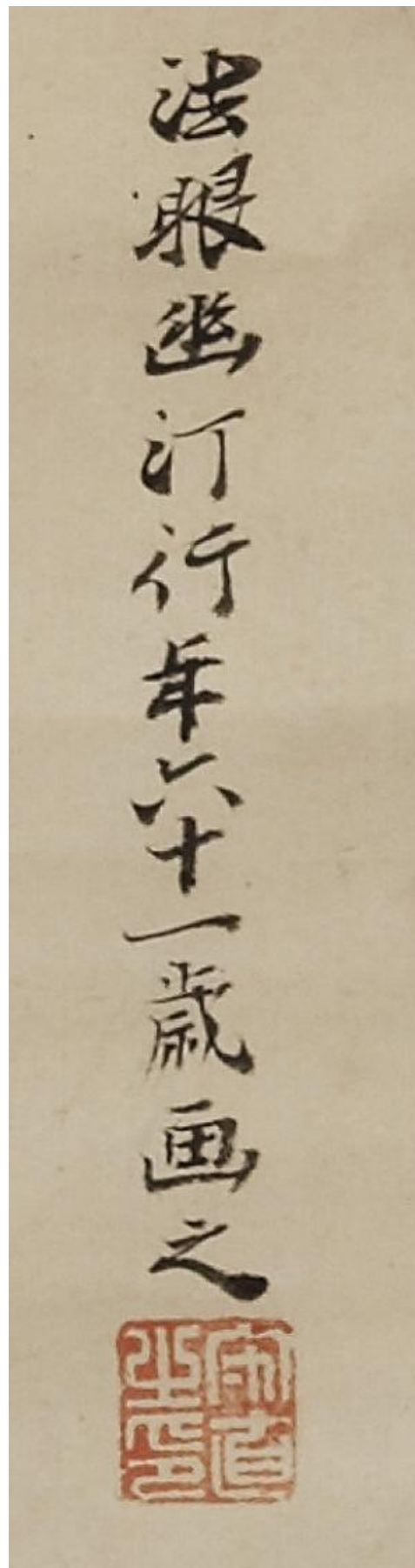
右幅 龍圖



左幅 虎图



左幅 虎圖 落款·印章



右幅 龍圖 落款·印章

2026年(令和8年)2月28日

明石市長 丸谷 聡子 様

明石市文化財保護審議会
会 長 奥 村 弘

明石市指定有形文化財への指定について(答申)

2026年2月13日付け明文ス第1218号で諮問のありました標記の件について、下記のとおり
答申します。

記

諮問のあった明石市指定有形文化財の指定については、別記の内容で市指定とすることを
妥当と認めます。

以上

記

名称 龍虎図りゅうこず

数量 2点(双幅)

時代 江戸時代

寸法 188 cm×60 cm

評価

この龍虎図は魚住町中尾ずいうんじの瑞雲寺にある。作者の石田幽汀いしだゆうてい(1721～1786)は明石郡西岡あかしぐんにしおか村むら(現在の明石市魚住町西岡)に生まれた江戸時代中期の絵師である。京都の石田家に養子として迎えられて家督を継ぎ、鶴澤探鯨つるざわたんげいに師事して禁裏絵師しじとなった。円山派まるやまの祖、円山応挙おうきよの師としても知られる。

本図は右幅を龍、左幅に虎を見つめ合うように対置している。右幅には「法眼幽汀行年六十一歳画之」、左幅には「法眼幽汀行年六十一歳圖之」と落款らっかんがあり、天明元年(1781)の作とわかる。両図の印章は「守直之印」と読める。宝暦7年(1757)に37歳で「法橋」、安永6年(1777)に57歳で「法眼」に叙せられた幽汀の経歴とも符合する。龍図には吹き墨の技法がみられる。

幽汀は郷里の明石で没したとされる。生家たちばなの橘たちばな氏の菩提寺は真言宗薬師院やくしいんであり、瑞雲寺とも近い位置にある。この龍虎図は制作年代を特定できる幽汀晩年の貴重な作品と評価できる。

名称 松鶴図 板絵4枚

所在 明石市魚住町1636 薬師院

由来

この松鶴図の板絵は魚住町の薬師院にある。4枚1組の構図で彩色にやや退色がみられる。落款や印章は確認できないが、龍虎図と同じく、石田幽汀の作と評価されている。薬師院は幽汀の生家である橘氏の菩提寺である。

構図は1枚に鶴のみ、2枚に鶴と松、1枚に松のみを描く。1羽は頭を右側に向けている。頭頂部は赤、首は白と黒、体はほぼ白く描かれており、他の2羽と別種のように表現されている。2羽は全体に黒く、頭を下げて向かい合うように描かれる。他の1枚に松と花が描かれる。

この板絵のほか、鶴を描いた幽汀の作品には静岡県立美術館蔵の群鶴図屏風がある。この屏風は5種の鶴を写実的に描き分けていることが指摘されている。このことから、鶴は幽汀の得意とする画題であったと考えられる。



松図

松鶴図 2

松鶴図 1

鶴図

兵庫県明石市薬師院所蔵板戸絵(伝石田幽汀筆)調査に関する報告

奈良教育大学 理科教育講座 教授 青木智史

美術教育講座 准教授 池田藍子 (文責)

調査日：2025年10月31日(金)

調査場所：明石市立文化博物館

調査員：青木智史、池田藍子

1. はじめに

本報告では、明石市立文化博物館の依頼を受け青木智史(奈良教育大学)、池田藍子(同左)が行った技法調査及び光学調査の成果とその所見について報告を行う。調査の対象は兵庫県明石市所在の薬師院が所蔵する板戸絵(伝石田幽汀筆)である。対象は、経年による色料の変褪色や剥落のため図様が不鮮明な状況にあり、その美術的価値を測ることが困難である。こうした状況を踏まえ本調査では、技法調査と光学調査の両面からアプローチすることで対象の図様の解明を試みた。

2. 調査対象

名称：板戸絵(伝石田幽汀筆)

材質・技法：板地著色

数量：4面

法量：各1740mm×980mm前後、厚(最大値)37mm

落款・印章：不明

時代：江戸時代カ

所蔵：薬師院(〒673-0084 兵庫県明石市魚住町西岡1636)

概要：石田幽汀筆と伝えられる松鶴図。絵面を内側に薬師院庫裏の玄関に嵌められていた。両引きとし、1枚の大きさは幅1740mm前後、全高980mm前後。縦板2枚張り。縦框、横框ともに黒漆塗カ。樹種不明(スギ?)。引手は金属製で座が稜花形、底には切れ込みのある四弁花の意匠をもつ。所蔵者によると、代々の檀家の拭き掃除によって絵画部分が大きく剥げてしまっており、署名落款があったとされる右下の部分は可視では何も確認できない状態となっている。作者や制作年代について、薬師院は石田幽汀の実家の菩提寺でありその制作に石田幽汀が関与していた可能性も考えられるが、現状の作品から見て取れる情報が少ないことから美術史的観点からの評価が難しく、確証には至っていない。

(※2025年9月25日受信の明石市市民生活局文化・スポーツ室歴史文化財担当・西本氏からのメール情報に調査成果を加筆し、再構成。)

3. 調査手法

以下2種の手法を用いて調査を行った。

- ・目視観察(調査担当:池田)
- ・可視光及び近赤外線撮影による光学調査(調査担当:青木)。使用機材はRICOH社製中判デジタル一眼レフカメラPENTAX 645D IR、浜松ホトニクス製赤外線投光器C1385-03。また、撮影時に用いた光学フィルタはFUJIFILM製の光吸収・赤外透過フィルタである。各画像の撮影波長域については画像データのファイル名を参照。

目視観察では人の目を通した物質の3次元的な把握を通して色料の粒子や塗り重ねの様子、接着剤の濡れ色、汚損、表面の凹凸の関係性を明らかにし、可視光及び近赤外線撮影による光学調査では高精細画像による顕微鏡的観察や近赤外線撮影画像による色料種の判別を行った。特に近赤外線撮影は墨線部分が明瞭になることから、墨を多用する我が国の文化財調査において使用頻度の高い調査手法であり、本対象のように人の眼を通して認識することが難しい状態にある図様には非常に有用な手法である。

4. 調査の成果と所見

・全体所見

写真撮影による光学調査に先立ち目視観察を行った。

板全体損傷が著しく、特に框部分では一部離脱している箇所や継いだ箇所以外にもひび割れが多数みられた。おそらく庫裏全体のゆがみに対応しようとした結果、その調整のため数度にわたって修理が繰り返されたのではないだろうか。また、引手は4つのうち1つの引手金物の欠失が認められた(図3)。絵画部分については、全体に変褪色と色料の剥落がみられ、図様の判別が困難となっている。各面の状態を比較すると中央2枚の損傷が著しいのに対し、両端2枚については比較的状态が良く、1967年刊行の『明石の風物4(薬師院・瑞雲寺・金輪寺)』掲載の写真から、対象が庫裏内に在していたある時期に両端2枚については板戸から障子に入れ替えられた様子が伺え、異なる環境下での保存が劣化の差異に影響を及ぼした可能性が推測された。

また、絵画部分ではいくつかの箇所に絵画とは無関係な大ぶりの文字や記号様の墨書が確認できた(図11、12、13)。意味をなさないような文字で、これらが画師や修理者の手によるものとは考え難く、明治初年頃に庫裏が竜松小学校として利用された時期があることを踏まえると、小学校を利用していた児童らによるものではないかと考えられる。

・材質について

スギと思しき板に各種色料を用いて3羽の鶴、松、松の根元に立木の花樹が描かれる。現状色として認められる黒色や緑色、白色、赤色部分について、目視観察及び近赤外線撮影写真の応答から総合的に解釈すると、いわゆる墨や岩緑青、炭酸カルシウムを主成分とする胡粉、水銀朱、弁柄などの鉱物及び土壌由来の伝統的な色料が使用されていることが推測された。また、板戸絵という基底材と、使用された色料の性質、表面の状態を鑑みると、展色剤については膠の可能性が高い。一方、各部を詳細に観察してみると、随所に加筆や塗り重ね

が認められ、現状同系色に見える部分であっても異なる色料を用いて塗り重ねられている可能性が大いにあり色料種の判断には十分に留意すべきであることがわかった。

・図様について

向かって右端の面に描かれた鶴が色料の残存状況が最も良好であった。ここでは頭部に描かれた墨による緻密な描線をはじめ細部の詳細な確認が出来た。中央2面に描かれた2羽については後年の修理に伴ってなされた再塗装と思しき色料に覆われていることにより、目視ではその描線を観察することが出来ない状態にあったが、近赤外線撮影画像によって色料下に存在する緻密な墨線が確認できた(図9)。このほか、松の枝葉や樹皮などに描き込まれた墨線も確認できた(図8、16)。これらの墨線群を当初のものであると考えることも出来るが、色料下のモチーフや外側に、不明瞭ではあるが色料や描線の痕跡のような部分(図10)が各所に認められることを踏まえると、絵の仕上げの前に描いた下描である可能性のほか当初の痕跡である可能性も想定され、いずれの可能性も含むことを考慮に入れて図様を捉え直す必要があることが判明した。

・落款・印章について

聞き取り調査において落款があったとされる右下部分に痕跡は認められなかった(図15)。一方、近赤外線撮影によって向かって左端の面の松の根元部分わずかながら文字のような痕跡が明らかになったものの字形の解読には至らなかった(図16)。

4. まとめ

残念ながら、今回の調査結果から事前の聞き取り調査で期待されていた落款・印章部分について、本作の作者の特定に直接繋がるような確定的な物的証拠を得ることが出来なかった。しかし、近赤外線撮影によって明らかとなった絵画全体に及ぶ加筆や再塗装箇所の下層部分の描線の筆致や、色料に関する情報は、今後作者を検討していくうえで有効な結果となったといえ、今後の作者特定の判断材料に資するものであると考えられる。本作を所蔵する薬師院は他にも石田幽汀筆と目される作品がいくつか伝えられており、特に書院奥の間の違い棚上の小襖絵は、「法眼幽汀筆」の落款と「守直」の朱印があることから幽汀晩年の作であることが明らかな作品である。そこには様々な種類の草花が描かれており、本作に描かれた草木の画風との比較検討から新たな知見を得られるように感じた。ほかにも書院南の室の南・東の障子腰板に描かれていたらしい水鳥や草花も、本作との関連性が感じられる作である。また、赤外線撮影画像によって明瞭になった鶴の作風についても幽汀作の「群鶴図屏風」(静岡県立美術館所蔵)との比較検討が可能であり、今後、美術史的観点からの更なる考察を期待したい。

参考文献: 山口徳二郎 撮影 ほか『明石の風物』4(薬師院・瑞雲寺・金輪寺),山口徳二郎,1967.11. 国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/9573937> (参照2025-12-23)



図1 板絵① 可視光 (380-760nm)



図2 板絵①近赤外線 (760-1100nm)



図3 板絵② 可視光 (380-760nm)



図4 板絵②近赤外線(760-1100nm)



図5 板絵③ 可視光 (380-760nm)



図6 板絵③近赤外線(760-1100nm)



図7 板絵④ 可視光 (380-760nm)



図8 板絵④近赤外線 (760-1100nm)



図9 板絵①_部分拡大 近赤外線 (860-1100nm)

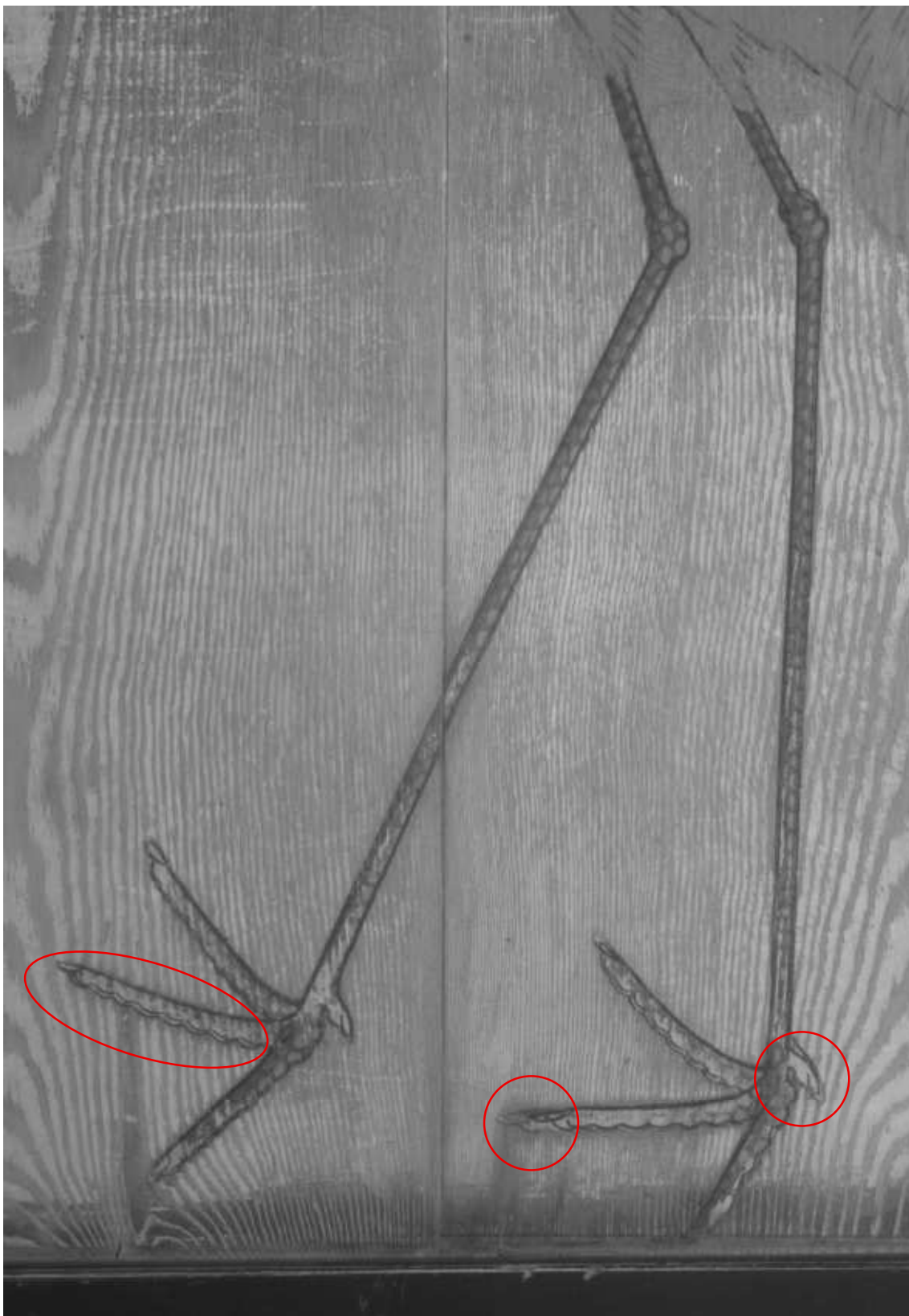


図10 板絵①_部分拡大 近赤外線(760-1100nm) 色料下痕跡(赤丸は特に顕著な部分)



(上図) 図 11 板絵②_部分拡大 近赤外線 (760-1100nm) 落書き
(下図) 図 12 板絵③_部分拡大 近赤外線 (760-1100nm) 落書き



(上図) 図 13 板絵④_部分拡大 近赤外線 (760-1100nm) 落書き

(下図) 図 14 板絵③_部分拡大 近赤外線 (760-1100nm) 下書き?



(上図) 図 15 板絵①_部分拡大 近赤外線 (760-1100nm) 落款なし

(下図) 図 16 板絵④_部分拡大 近赤外線 (760-1100nm) 落款痕跡?

(1)文化財関係補助事業について

○織田家長屋門及び付属塀

・屋根の復旧

織田家長屋門東側の屋根に雨漏りが発生している部分がある。材を取り替え、瓦を再利用し、旧状に復するもの。

・防犯カメラの設置

織田家長屋門及び付属塀は道路、駐車場、ホテルに面しているが、周辺に防犯カメラがない。所有者から敷地内への侵入と文化財の管理に支障がある旨の相談があり 4 台の防犯カメラを設置するもの。

○木造地藏菩薩坐像

・木造地藏菩薩坐像の修復

像の胴と膝部分が分離しているため接着するもの。

・防犯カメラの設置

所有者から相談があり木造地藏菩薩坐像の所在する延命寺に 4 台の防犯カメラを設置するもの。

○織田家長屋門



○木造地藏菩薩坐像





像底

(2) 2025年度埋蔵文化財発掘調査事業について

No.	遺跡名	所在地	事業名	開発面積 (m ²)	調査面積 (m ²)	調査期間
1	松江遺跡 第6地点 (MT6-2)	松江字薦池574番1他	宅地造成	1174.25	280	令和7年4月16日 ～6月5日
2	東野町遺跡 第8地点 (HG8-2)	東野町1866番	宅地造成	1485.68	415	令和7年4月23日 ～6月6日
3	魚住古窯跡群 西島第17地点 (NJ17-2)	大久保町西島485番13	個人住宅	175.50	69	令和7年4月23日 ～5月8日
4	松江遺跡 第7地点 (MT7-2)	松江字中筋743番1	宅地造成	2081.00	222	令和7年4月23日 ～5月28日
5	太寺廃寺 第33地点 (TD33-3)	太寺2丁目107番	個人住宅	209.52	63	令和7年4月30日 ～5月14日
6	上檜山遺跡 (KHM1-2)	大久保町大窪字上檜山 1877番7他	宅地造成	2308.44	435	令和7年5月20日 ～6月27日
7	太寺廃寺 第40地点 (TD40-2)	太寺大野町2710-1他	特別養護老人 ホーム	994.51	23	令和7年6月13日 ～6月20日
8	谷八木遺跡 第3地点 (TYG3-2)	大久保町谷八木字辻ノ外 863番7	個人住宅	130.66	70	2025年6月23日 ～7月2日
9	太寺廃寺塔跡 第5次 (TD24-6)	太寺2丁目2993番5の一部 他	史跡整備	22.00	22	2025年7月3日 ～9月17日
10	魚住清水遺跡 第6地点 (USZ6-2)	魚住町清水字往還西1303 番17	個人住宅	159.50	83	2025年7月8日 ～8月19日
11	魚住古窯跡群中尾地点 (UN15-2)	魚住町中尾507-7他	集合住宅	997.90	512	2025年7月10日 ～9月12日
12	太寺廃寺 第41地点 (TD41-2)	太寺2丁目2999番1 2999番3・2998番1の各一部	個人住宅	374.55	72	2025年7月16日 ～7月29日
13	天王後 第2地点 (TEN2-2)	魚住町西岡字天王後1632 番、1699番1	個人住宅	200.93	80	2025年8月1日 ～8月22日
14	明石城武家屋敷跡 山下町 第33地点 (YM33-2)	山下町946番3	個人住宅	112.57	67	2025年8月5日 ～9月7日
15	明石城下町町屋跡 鍛冶 屋町 第7地点 (KJ7-2)	鍛冶屋町18番2、19番 20番1	集合住宅	396.57	270	2025年8月8日 ～9月29日
16	明石城武家屋敷跡 山下町 第34地点 (YM34-2)	山下町地内	雨水管敷設	164.88	165	2025年8月18日 ～9月8日
17	藤原遺跡 第2地点 (FJW2-2)	二見町福里字大道星322 番3の一部他	宅地造成	432.82	105	2025年8月29日～ 9月26日
18	荒内遺跡 第2地点 (AU2-2)	二見町東二見字荒内1095 番1の一部、他	宅地造成	499.49	117	2025年10月2日 ～10月20日
19	清水西遺跡 第3地点 (SZW3-2)	魚住町清水字田代2020番 1外	宅地造成	5939.93	1,143	2025年10月6日 ～12月12日
20	藤江遺跡 第15地点 (FJ15-2)	藤江字中畑1404番1 他	宅地造成	10818.03	580	2025年10月20日 ～12月13日
21	明石城武家屋敷跡 山下町 第35地点 (YM35-2)	山下町9-15	就労支援施設建設	207.00	98	2025年11月10日 ～12月3日
22	明石城武家屋敷跡 桜町 第28地点 (SAK28-2)	桜町1195番19	共同住宅建設	153.88	110	2025年12月8日 ～2026年1月15日
23	明石城下町町屋跡 天文 町 第7地点 (TEM7-2)	天文町2丁目130-6	個人住宅	116.17	28	2025年12月9日 ～12月17日
24	魚住古窯跡群 西島第18地点 (NJ18-2)	大久保町西嶋字物森1044 番1、1045番、1046番1、 1046番2、水路	宅地造成	2942.32	411	2025年12月23日 ～
25	太寺廃寺 第42地点 (TD42-2)	太寺大野町2643番地1、 他	宅地造成	409.77	80	2026年1月6日 ～1月27日
26	硯町 第10地点 (SUZ10-2)	硯町1丁目15番	宅地造成	1008.54	144	2026年1月23日 ～
27	上ノ丸遺跡第24地点 (UM24-2)	上ノ丸二丁目65番4	個人住宅	167.86		2026年1月30日 ～2月6日

『新修明石市史』通史編 I 刊行記念講演・シンポジウム 明石の自然・考古が語る歴史

2026年1月18日（日）

13時00分～16時30分（開場 12時00分）
会場：明石市立西部市民会館

入場無料
申込不要

あいさつ 丸谷 聡子（明石市長）
はじめに 奥村 弘氏（兵庫県立歴史博物館館長）
「新修明石市史編さんにあたって」

【講演1】 春成 秀爾氏（国立歴史民俗博物館名誉教授）
「明石の考古学」

【講演2】 森本 眞一氏（兵庫地理学協会会員）
「明石の地形と地質の特徴」

【シンポジウム】

コーディネーター

大国 正美氏（神戸深江生活文化史料館館長）

パネラー

奥村 弘氏、春成 秀爾氏、
森本 眞一氏、吉岡 保氏（神戸史学会会員）



スロープギャラリーにおいて
明石市史関係資料の特別展示
を行います。
（1月18日（日）～1月31日（土））

1. アケボノゾウ化石
2. 明石人骨（レプリカ）
3. 碧玉石器、木器
4. 藤江別所遺跡車輪石
5. 寺山古墳馬形埴輪
6. 林崎三本松瓦窯跡鬼瓦

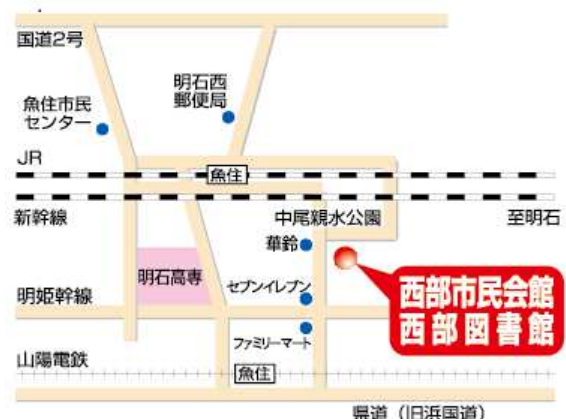
当日会場ロビーにて
『新修明石市史』通史編 I のほか
『明石の歴史』第1～7号
『明石の酒』『明石の瓦』
『明石の燐寸』を販売します。

会場：明石市立西部市民会館
（明石市魚住町中尾702-3）

定員：450名

※西部市民会館には西部図書館と共用の駐車場
がありますが、混雑が予想されます。

ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。



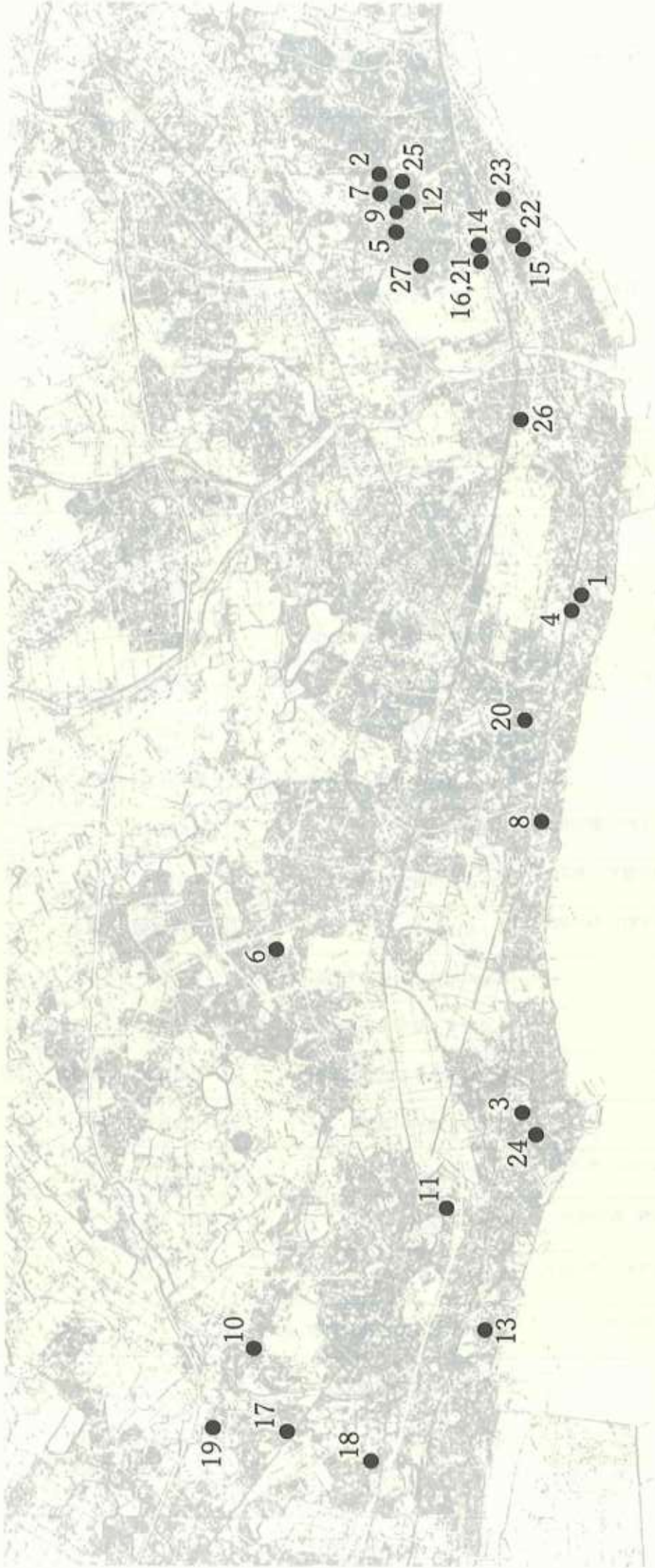
問い合わせ先：明石市市民生活局歴史文化財担当（TEL 078-918-5629/FAX 078-918-5633）





2025年度 埋蔵文化財発掘調査一覽

No.	遺跡名	所在地	事業名	開発面積 (㎡)	調査面積 (㎡)	調査期間
1	松江遺跡 第6地点 (MT6-2)	松江字萬池574番1他	宅地造成	1,174	280	2025年4月16日 ～6月5日
2	東野町遺跡 第8地点 (HG8-2)	東野町1866番	宅地造成	1,486	415	2025年4月23日 ～6月6日
3	魚住古窯跡群 西島 第17地点 (NJ17-2)	大久保町西島485番13	個人住宅	176	69	2025年4月23日 ～5月8日
4	松江遺跡 第7地点 (MT7-2)	松江字中筋743番1	宅地造成	2,081	222	2025年4月23日 ～5月28日
5	太寺廃寺 第33地点 (TD33-3)	太寺2丁目107番	個人住宅	210	63	2025年4月30日 ～5月14日
6	上檜山遺跡 (KHM1-2)	大久保町大程字上檜山1877番7他	宅地造成	2,308	435	2025年5月20日 ～6月27日
7	太寺廃寺 第40地点 (TD40-2)	太寺大野町2710-1他	特別養護老人ホーム	995	23	2025年6月13日 ～6月20日
8	谷八木遺跡 第3地点 (TYG3-2)	大久保町谷八木字辻ノ外863番7	個人住宅	131	70	2025年6月23日 ～7月2日
9	太寺廃寺塔跡 第5次 (TD24-6)	太寺2丁目2993番5の一部他	史跡整備	22	22	2025年7月3日 ～9月17日
10	魚住清水遺跡 第6地点 (USZ6-2)	魚住町清水字往還西1303番17	個人住宅	160	83	2025年7月8日 ～8月19日
11	魚住古窯跡群 中尾地点 (UN15-2)	魚住町中尾507-7他	集合住宅	998	512	2025年7月10日 ～9月12日
12	太寺廃寺 第41地点 (TD41-2)	太寺2丁目2999番1 2999番3・2998番1の各一部	個人住宅	375	72	2025年7月16日 ～7月29日
13	天王後 第2地点 (TEN2-2)	魚住町西岡字天王後1632番、1699番1	個人住宅	201	80	2025年8月1日 ～8月25日
14	明石城武家屋敷跡 山下町 第33地点 (YM33-2)	山下町946番3	個人住宅	113	67	2025年8月5日 ～9月7日
15	明石城下町町屋跡 鍛冶屋町 第7地点 (KJ7-2)	鍛冶屋町18番2、19番、20番1	集合住宅	397	270	2025年8月8日 ～9月29日
16	明石城武家屋敷跡 山下町 第34地点 (YM34-2)	山下町地内	雨水管敷設	165	165	2025年8月18日 ～9月8日
17	藤原遺跡 第2地点 (FJW2-2)	二見町福里字大道屋322番3の一部他	宅地造成	433	105	2025年8月29日 ～9月26日
18	荒内遺跡 第2地点 (AU2-2)	二見町東二見字荒内1095番1の一部他	宅地造成	499	117	2025年10月2日 ～10月20日
19	清水西遺跡 第3地点 (SZW3-2)	魚住町清水字田代2020番1外	宅地造成	5,940	1143	2025年10月6日 ～12月12日
20	藤江遺跡 第15地点 (FJ15-2)	藤江字中畑1404番1他	宅地造成	10,818	580	2025年10月20日 ～12月13日
21	明石城武家屋敷跡 山下町 第35地点 (YM35-2)	山下町9-15	就労支援施設建設	207	98	2025年11月10日 ～12月3日
22	明石城武家屋敷跡 桜町 第28地点 (SAK28-2)	桜町1195番19	共同住宅建設	154	110	2025年12月8日 ～2026年1月15日
23	明石城下町町屋跡 天文町 第7地点 (TEM7-2)	天文町2丁目130-6	個人住宅	116	28	2025年12月9日 ～12月17日
24	魚住古窯跡群 西島 第18地点 (NJ18-2)	大久保町西嶋字物森1044番1他	宅地造成	2,942	411	2025年12月23日 ～
25	太寺廃寺 第42地点 (TD42-2)	太寺大野町2643番地1他	宅地造成	410	80	2026年1月6日 ～1月27日
26	碓町遺跡 第10地点 (SUZ10-2)	碓町1丁目15番	宅地造成	1,009	144	2026年1月23日 ～
27	上ノ丸遺跡 第24地点 (UM24-2)	上ノ丸二丁目65番4	個人住宅	168	30	2026年1月30日 ～2月6日



9 太寺廃寺塔跡第5次確認調査実績報告書

- 1 所在地 明石市太寺2丁目2993番
- 2 開発事業名 史跡整備
- 3 事業者名 高家寺
- 4 調査主体 明石市
- 5 調査担当者 稲原 昭嘉・下城 友祐
- 6 調査の種別 確認調査
- 7 調査期間 令和7年7月3日～9月17日
- 8 調査面積 約 22㎡

9 調査に至る経緯

太寺廃寺の塔跡として比定されている高台の、南西方向に張り出した尾根状の東側の擁壁が隣家に傾きをみせていたことから擁壁の撤去・敷設工事に先立って、南西の張り出し部分の遺構の残存状況を確認するための調査を行うことになった。

10 調査の結果

1 トレンチは、南西張り出し部の西側斜面において、過去の調査区 (Tr.9) より南へ約1m離し、南北約1m、東西約4mの範囲で設定した。

盛土は、約30cmの厚みで堆積していた。トレンチ東部では盛土のすぐ下で版築層が確認された。中央から西部にかけては、地形が西へ向かって落ち、そこに約60cmの厚みで古代～近世の遺物が混在する堆積層が確認された。

トレンチ中央、堆積層下の版築層平坦部からは、土坑 (SK108) が見つかった。径約60cm、深さ約20cmの円形を呈し、埋土からは近世の瓦に混じって、古代から中世にかけての須恵器、土師器、瓦が出土した。

トレンチの西端、古代～近世の堆積層下では、溝 (SD112) が検出された。残存幅約70cm、深さ約30cmを測る。想定される塔の基壇縁からは約4m西に位置し、南北方向に流れており、埋土からは7～8世紀に相当する格子目・綾杉叩目文平瓦が出土している。雨落ちの溝と考えられる。

また、版築層は、頂部が標高約35.3mで、最大約1.4mの厚みで、固く締まっていないが6～10層の水平堆積を呈する。この版築層は塔跡の基壇を構成する版築層と、大きな差異が確認されなかったため、張り出し部は後世に付け足されたものではなく、塔本体の基壇と同時に作られたものと考えられた。

1 トレンチの版築層の西裾部では、掘り込み地業層に相当する堆積層が確認され、地業面は標高約33.9m、掘り込みの底は標高約33.7mを測る。埋土からは、7世紀初めに相当する須恵器杯身や土師器片が出土している。

2 トレンチでは、東部では、1 トレンチと同じく盛土のすぐ下で版築層が確認された。中央から西部にかけては地形が西へ向かって落ち、そこに約60cmの厚みで古代～近世の遺物が混在する堆積層が確認された。埋土からは塑像の螺髪が見つかった。螺髪は長さ約4cmと比較的大型で、過去の調査でも同様の大きさの螺髪が見つかった。この螺髪から復元される仏像の大きさは丈六級 (立像で約4.8m) とみられ、金堂に安置される本尊級の像であ

った可能性が高い。

トレンチの北東から南西方向にかけては、版築層が南西に向かって落ち、そこに瓦溜まり(SD201)が堆積していた。埋土からは土師器埴鉢、刻線綾杉文・刻線格子・縄叩きを有する平瓦、有稜素弁八葉蓮華文軒丸瓦、単弁八葉蓮華文軒丸瓦に加え、唐草文・連珠文軒平瓦、巴文軒丸瓦が出土しており、7世紀後半～近世に至るまでの遺物が混在していた。

トレンチの西端、古代～近世の堆積層下では、溝(SD207)が検出された。幅約50cm、深さ30cmを測る。想定される塔の基壇縁からは約4m西に位置し、南北方向に走り、埋土からは7～8世紀に相当する格子叩目文平瓦が出土している。SD112と同一の雨落ち溝と考えられ、基壇縁に対してほぼ平行である。溝の下では、1トレンチにおいて確認された地業層は認められなかった。

3トレンチは、南東部の擁壁に対して平行に50cm程離し、幅約1m、長さ約6mの範囲で設定した。擁壁際から約1mまでの部分は削平を受けていたが、残存していた版築層と掘り込み地業層の堆積状況が確認できた。版築層上辺は標高約35.0mを測り、その下に最大約1.1mの厚みで、10層の水平堆積を呈する。上層は10～20cm幅の瓦層状を呈し、突き固められていた。

3トレンチにおける版築層下の地業層は、想定される塔の南西隅の礎石跡から南西へ約5mの地点で掘り方が見つかった。1トレンチで確認できた掘り込み地業の範囲も含めると、想定される塔基壇縁から西へ約4m、南へ約3mの範囲にわたって掘り込み地業層が広がっていると推定される。地業面は標高33.9m前後で見つかり、掘り込みの底は標高33.7m前後でほぼ一定の深さであった。埋土からは須恵器、土師器片が確認されており、7世紀初めに相当する。

4トレンチでは、土のすぐ下において、2トレンチで確認された瓦溜まり(SD201)が続いていることが確認された。

11 まとめ

今回の調査では、塔基壇の南西張り出し部分を調査し、当初盛土とみられていた張り出し部分が、複数の層からなる版築層であり、塔本体の基壇版築層と差異がみられないことから、張り出し部は塔の基壇と同時に作られていたことがわかった。

また、地業は現在推定される基壇縁より西に2間、南に1間分ほど広い範囲に及び、雨落ち溝も推定基壇縁より4m程西に離れており、現在想定される塔に伴う遺構とは考えにくい。さらに、今回の調査に加えて過去の調査においても、塔には伴わない丈六級の塑像の破片が出土していることから、現在想定されている塔跡より規模の大きな建物が基壇上に建てられていた可能性が浮かび上がってきた。

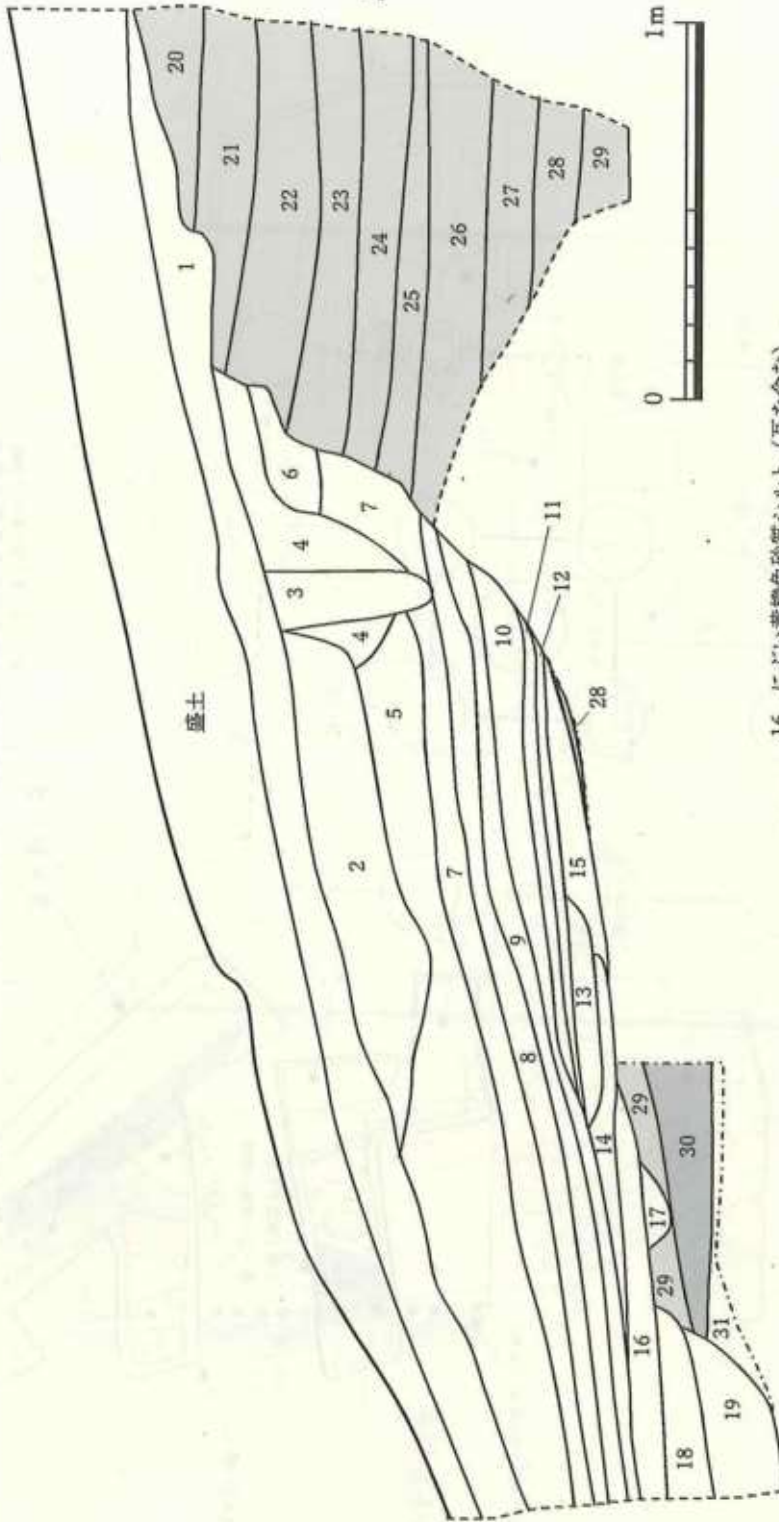
今後は、地業層の広がりおよび基壇版築層の位置づけを探り、現在塔跡と比定されている建物の性格を改めて検討していくことが課題である。

W

E

35.0m

34.0m

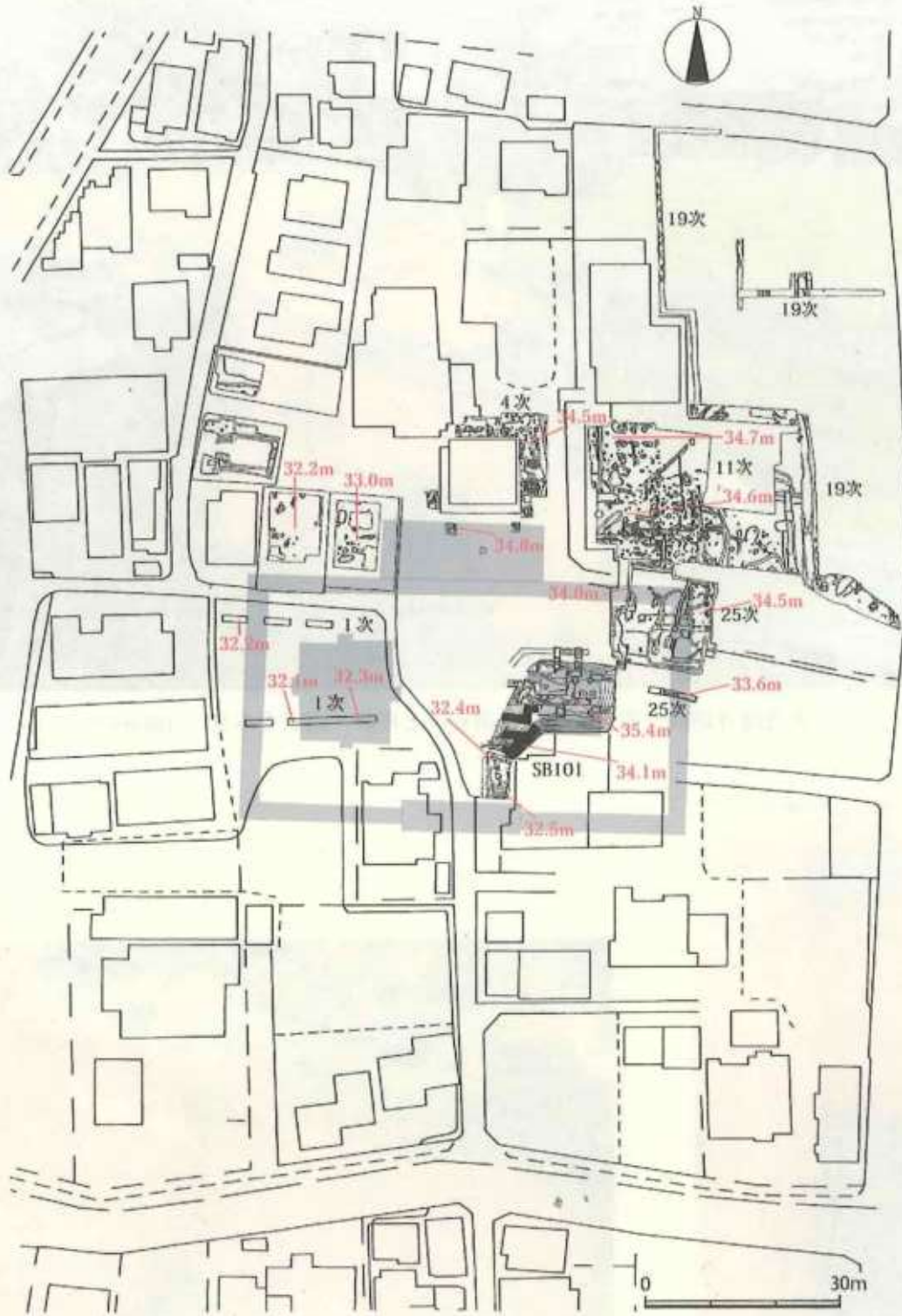


- | | | | |
|----|--------------------------|----|---|
| 1 | 褐色シルト質細砂 (陶磁器、瓦を含む) | 16 | にぶい黄褐色砂質シルト (瓦を含む) |
| 2 | にぶい黄褐色シルト質細砂 | 17 | にぶい黄褐色砂質シルト (瓦を含む) |
| 3 | 浅黄褐色砂質シルト (シルトブロック、瓦を含む) | 18 | にぶい黄褐色砂質シルト (瓦を含む) |
| 4 | 褐色シルト質細砂 | 19 | 明黄褐色砂質シルト (瓦を含む) |
| 5 | にぶい黄褐色シルト質細砂 (陶磁器、瓦を含む) | 20 | にぶい黄褐色シルト質細砂 (Feを多く含む、シルトブロックを含む) |
| 6 | 浅黄褐色シルト質細砂 | 21 | 浅黄褐色シルト質細砂 (Feを多く含む、シルトブロックを含む) |
| 7 | 褐色シルト質細砂 (瓦を含む) | 22 | にぶい黄褐色シルト質細砂 (Feを多く含む、シルトブロックを含む) |
| 8 | 褐色シルト質細砂 (炭粒、瓦を含む) | 23 | にぶい黄褐色シルト質細砂 (Mnを少量含む、シルトブロックを含む) |
| 9 | 浅黄褐色細砂 (固く締まる/炭粒を含む) | 24 | にぶい黄褐色シルト質細砂 (Mnを少量含む、シルトブロックを含む) |
| 10 | にぶい黄褐色細砂 (固くしまる/炭粒を含む) | 25 | 明黄褐色細砂 (0.5cm大礫、シルトブロックを含む) |
| 11 | 灰黄褐色細砂 (固く締まる) | 26 | にぶい黄褐色シルト質細砂 (Mnを少量含む、シルトブロックを含む) |
| 12 | 灰褐色細砂 (固く締まる/シルトブロックを含む) | 27 | にぶい黄褐色シルト質細砂 (Mnを含む、シルトブロックを含む) |
| 13 | 灰黄褐色砂質シルト (炭粒を含む) | 28 | にぶい黄褐色シルト質細砂 (Mnを含む、シルトブロックを含む) |
| 14 | 灰褐色砂質シルト (瓦を含む) | 29 | にぶい黄褐色シルト質細砂 (シルトブロックを含む) |
| 15 | 褐色砂質シルト (瓦を含む) | 30 | にぶい黄褐色シルト質細砂 (Mn、須恵器、土師器を含む) / 掘り込み地業埋土 |
| | | 31 | 黄褐色シルト (Feを多く含む) / 基盤層 |

太寺廃寺塔跡 第5次

1 トレンチ北壁土層

(S=1/20)



太寺廃寺塔跡 第5次調査 トレンチ位置(黒塗り)と周辺の過去調査
 (赤字: 調査時最終面の標高値 網掛け: 推定される伽藍配置)



太寺廃寺塔跡 第5次調査 調査区と塔跡・高家寺本堂 (南から)



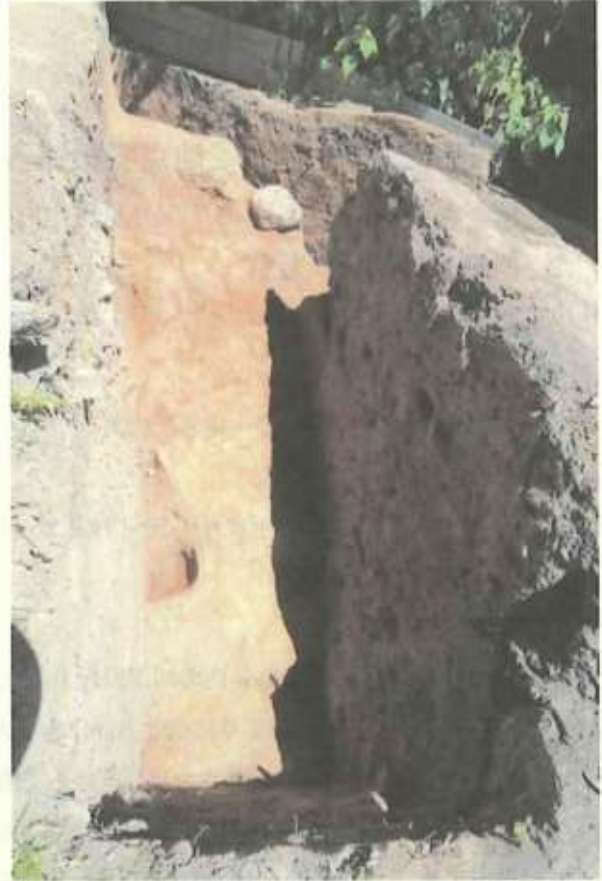
1 トレンチ 版築層 (西から)



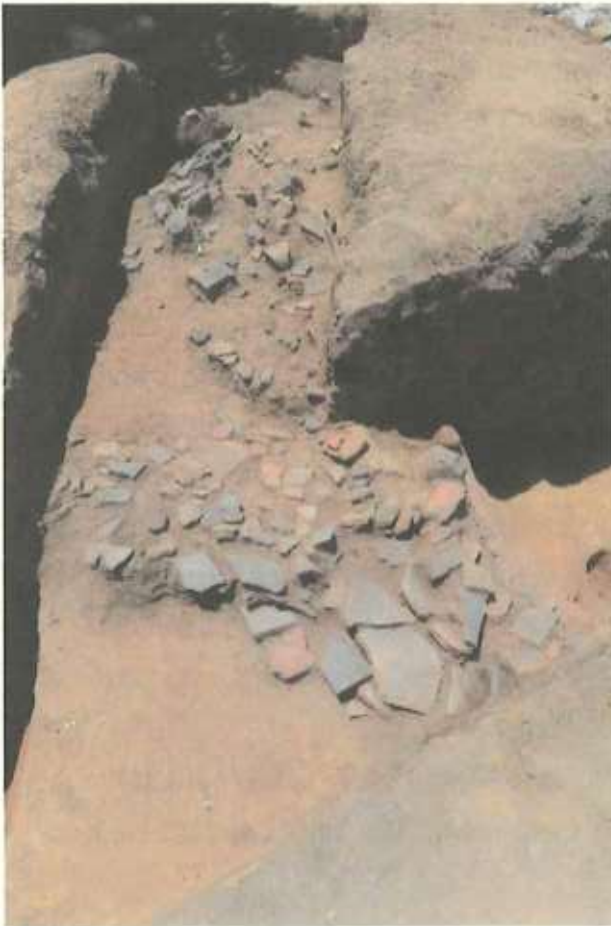
2 トレンチ 掘り込み地業の南西隅掘方 (東から)



1 トレンチ 雨落ち溝(手前) 遺物出土状況
(西から)



2 トレンチ 雨落ち溝(手前) (西から)



2 トレンチ 瓦溜まり(北から)



古瓦



地業層から出土した須恵器・土師器



螺髪

13 天王後遺跡 第2-2地点実績報告書

- 1 所在地 明石市魚住町西岡 1632、1699-1
- 2 開発事業名 個人住宅
- 3 事業者名 杉原 僚
- 4 調査主体 明石市
- 5 調査担当者 稲原昭嘉・中原紀代美
- 6 調査の種別 発掘調査
- 7 調査期間 令和7年8月1日～8月25日
- 8 調査面積 約 80 m²
- 9 調査の結果

調査地は瀬戸川より約80m西の河岸段丘上に立地する。

調査区中央よりもやや東寄りに南北方向に走る大溝 (SD01) が検出された。大溝の上幅は約2.5m、底部幅は約1.5m、深さ90cmの大きさを呈している。溝の断面形は「コ」の字状で、底部には10～20cm大の石が敷き詰められ、その中に13～14世紀頃の軒平瓦をはじめ、土師質土錘や蛸壺、須恵器こね鉢、甕、青磁碗などが出土した。この溝は一旦埋められた後、再度掘り直されたようで、上層で幅約1.6m、深さ約60cmの大きさの溝となり、機能していた。その埋土からは磁器碗や陶器碗、砥石、瓦片などの近世遺物が中心に検出されている。大溝は中世前期頃に造られ、その後、江戸時代に入るまでに一旦埋められ、その後、新たに溝幅を狭めて掘り直されたとみられる。

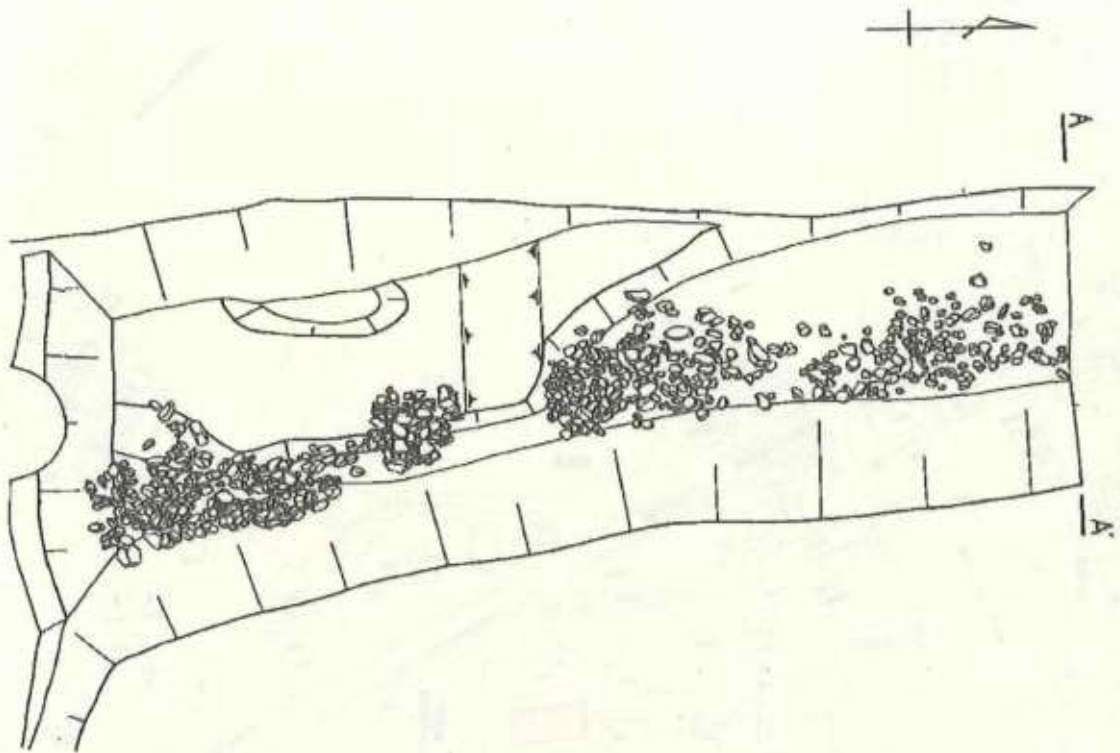
当地は薬師院の北に位置する。薬師院 (関伽寺) は天平2年 (730) 行基によって創建されたとの伝承がある寺である。仁和の頃 (885) には隆盛を誇り、七堂伽藍や坊舎が20軒以上も建ち並んでいたと伝わる。さらに、当該地周辺に中世の城館であった西岡構居があったといわれている。江戸時代の元禄年間 (1688～1704) に編さんされた『采邑私記』によると、西岡村の項に「有小城址土人称備前屋敷未詳何人」とあり、備前屋敷と呼ばれる城跡があったことが伺える。

今回見つかった幅約2.5m、深さ約90cmの大きさをもつ大溝 (SD01) は、規模や形態が中世の城館に伴う堀の典型的なものであり、西岡構居の東を画する堀であると判断される。大溝の東側は約5.5mの高低差をもつ自然の崖である。また南側へも地形が下っており、東側と南側に自然地形を生かした防御構造をもつ城館であったと見受けられる。昭和32年 (1957) の地形図によると、検出された堀より、約50m西に堀と平行に延びる道が描かれており、また、調査区の南北に堀と直交する向きに敷地境界線があり、その間も約50mあることから、50m四方に堀を巡らし、その中に居館が存在していたと推定することができる。

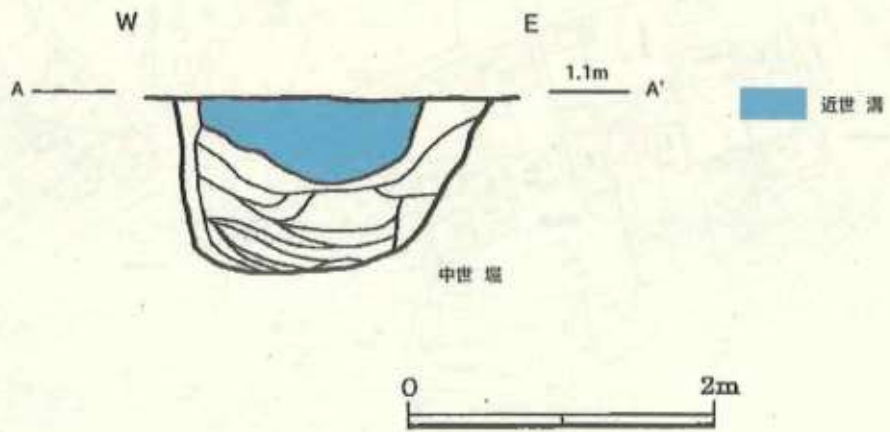
現在、当該地は字名が「天王後」であるが、「明治十年 兵庫県下 播磨國明石郡西岡村地圖」では「御屋敷」と描かれている。先の「備前屋敷」と呼ばれていた遺称になるものと思われる。当該地の南側にある薬師院を含む周辺は「殿ヶ市」、薬師院より南側は「居屋敷」という字名がついている。これらの字名から、城館を一番高い段丘上に設定して、その南に家臣が住む屋敷を配置していたことがみられる。

今回の調査において、これまで存在が伝承のみであった西岡構居の存在が考古学的に確認された意義は大きく、古代から続く薬師院を含め、瀬戸川流域の当地周辺が古くから地理的に重要な場所であったことを裏付けるものとして重要な成果であった。

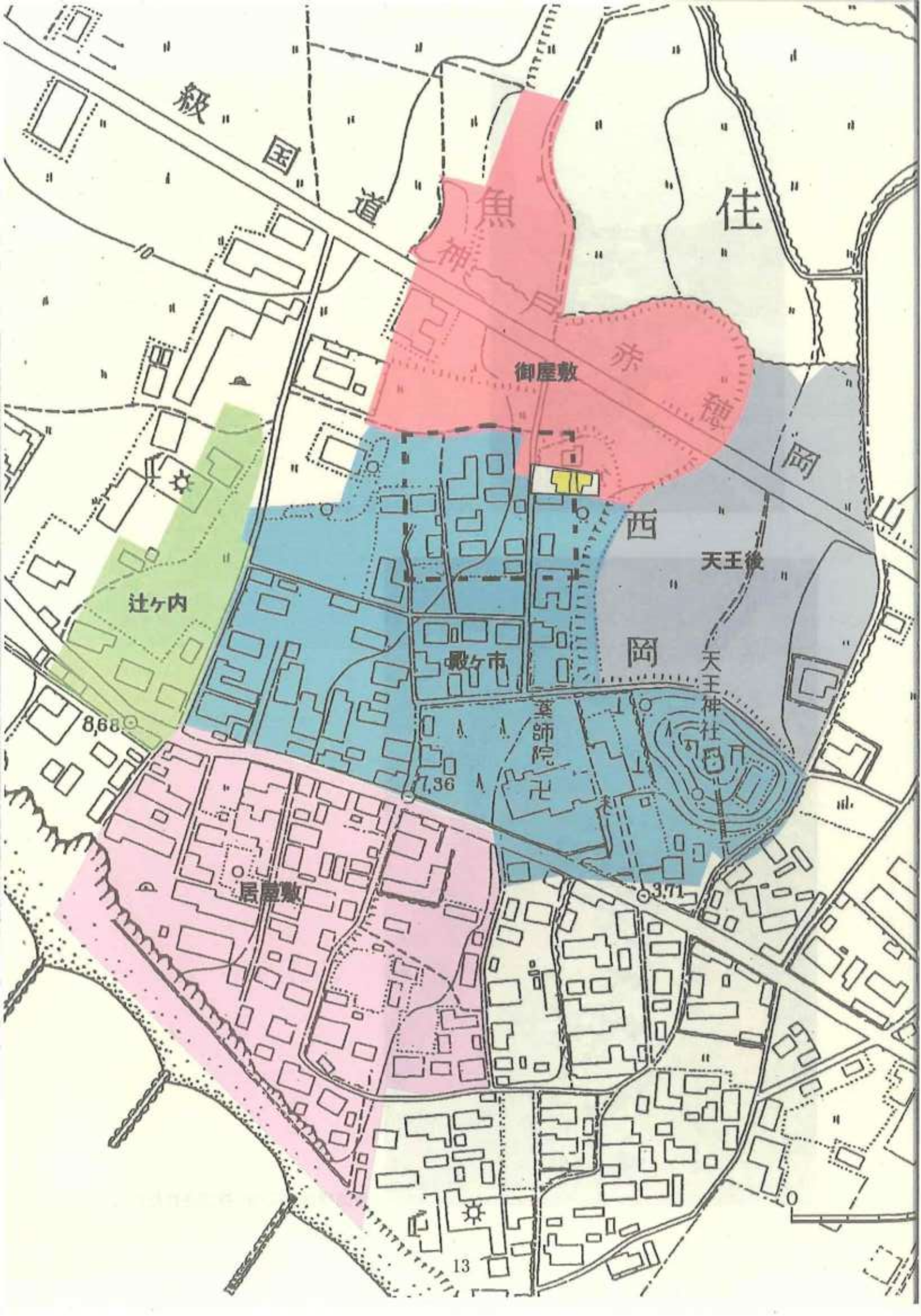




石検出状況 SD01底部



SD01 北壁



級

国

道

魚

住

神

御屋敷

赤

穂

岡

西

天王後

辻之内

殿ヶ市

岡

天王神社

868

736

薬師院

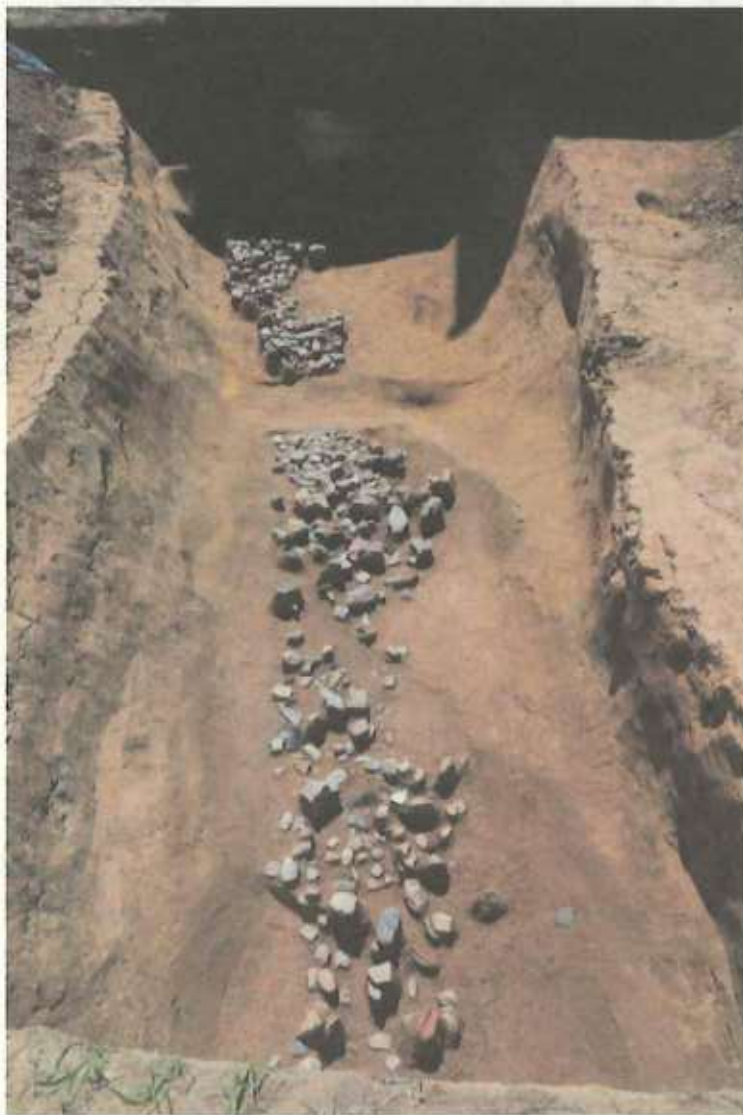
371

居屋敷

13



西岡構居跡全景（北から）



西岡構居跡の堀（検出された長さ7.4m、幅2.5m）



堀



堀出土の瓦、土器等

はこ 播磨の古瓦展 がわら

観覧無料

～旧個人コレクションを中心に～

明石市に在住し、国内外の古瓦収集家として知られる個人が旧蔵されていた播磨地域の古瓦が一時全国に散逸していましたが、有志の方のご尽力により数百点におよぶ瓦類が収集され、この度明石市に寄贈していただきました。さらに、太寺廃寺や高丘古窯跡群など、明石市内の遺跡からの出土瓦も加えて、これら飛鳥時代から平安時代にかけての播磨の古瓦を一堂に展示します。

現代の瓦とは全く違う、古代瓦の独特な世界を体感してみませんか？



2026年 2月 14日(土)～ 3月 29日(日)

- 開館時間／9時～17時 *月曜休館 (2月23日(日)は開館します)
- 駐車場5台(うち車椅子対応1台) (土日・祝日も開館)
- JR魚住駅から徒歩25分 ■山陽電鉄東二見駅から徒歩20分
- たこバス山川北停留所から徒歩5分
- 電話／078-918-5629 ■FAX／078-918-5633
- 明石市民生活局文化・スポーツ室歴史文化財担当



魚住文化財収蔵庫

明石市魚住町西岡 2119 番地の 23

